

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年 11月 8日

株式会社ジェイテクト

1. 2020年3月期 第2四半期業績

2. 2020年 3月期 通期業績予想

3. 事業別の状況

1-1) 連結損益

円高や需要減少の環境のもと、原価改善を積み上げるも大幅減益
北米事業再編費用の特別損失計上により、四半期純利益の減益幅拡大

() は、売上高利益率

	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増減額	増減率
売上高	7,429	7,219	△ 209	△ 2.8%
営業利益	(4.4%) 325	(2.9%) 211	△ 113	△ 35.0%
経常利益	(4.7%) 347	(3.1%) 224	△ 122	△ 35.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(2.6%) 190	(0.7%) 47	△ 143	△ 75.2%
為替レートの (4月～9月)	110.26円/USD 129.85円/EUR	108.63円/USD 121.42円/EUR	1.63円 円高 8.43円 円高	
設備投資額	321	355	+ 34	+ 10.6%
減価償却費	316	319	+ 3	+ 0.9%
研究開発費	(4.0%) 297	(4.5%) 324	+ 27	+ 9.2%
配当金	中間	22円	22円	—
	期末	22円	22円	—

(億円)

1-2) 営業利益の増減分析

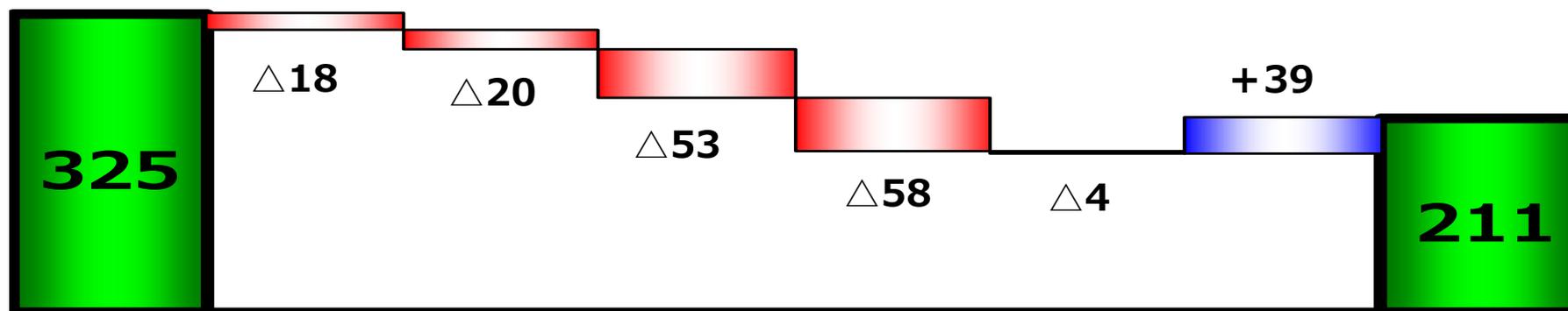
売価水準ダウンを原価改善でカバーできず、さらに売上減と、CASE対応等の研究開発費増などで大幅減益

営業利益 114億円の減益

減益要因 153億円

増益要因 39億円

(億円)



19/3期 2Q累計	為替差	売上減による利益減	費用増	売価水準ダウン	その他	原価改善	20/3期 2Q累計

1-3) 事業別業績

機械器具部品

高収益の中国での需要減、各地域での軸受の減収、
売価水準ダウン・費用増により大幅減益

工作機械

原価改善効果があるも、減収の影響等により大幅減益

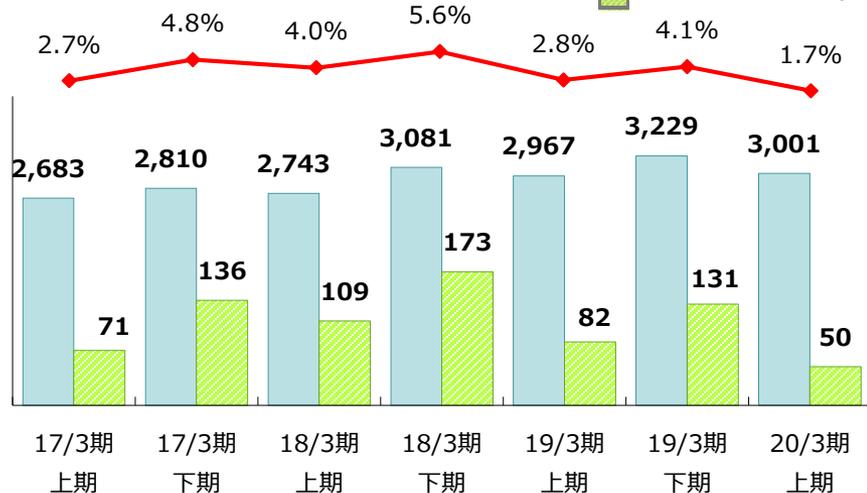
(億円)

		19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増減額	増減率
機 械 器 具 部 品	売 上 高	6,580	6,401	△ 178	△ 2.7%
	ステアリング	3,698	3,696	△ 2	△ 0.1%
	駆 動	769	765	△ 4	△ 0.6%
	軸 受	2,112	1,940	△ 172	△ 8.1%
	営業利益 (利益率)	244 (3.7%)	139 (2.2%)	△ 105	△ 43.2%
工 作 機 械	売 上 高	848	817	△ 30	△ 3.7%
	工 作 機 械	840	809	△ 30	△ 3.6%
	そ の 他	8	8	△ 0	△ 4.9%
	営業利益 (利益率)	77 (9.2%)	66 (8.1%)	△ 11	△ 14.7%

1-4) 法人所在地別業績①

日本

売上高 営業利益率
営業利益 (億円)



(億円)

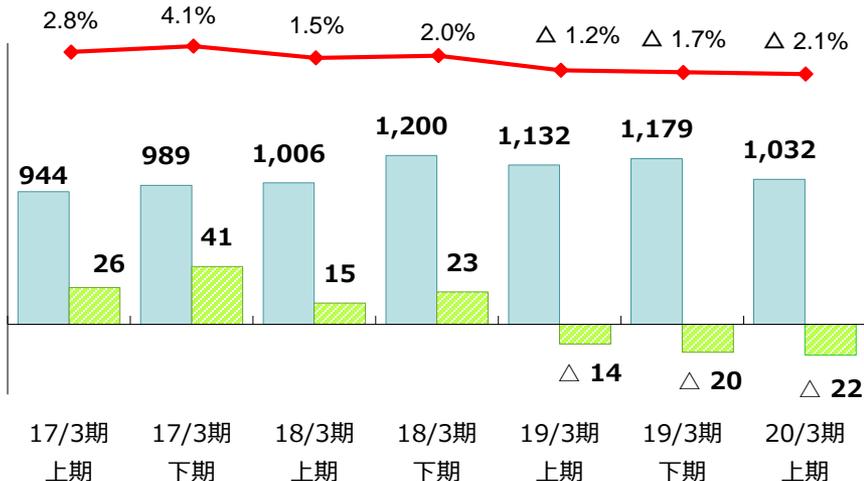
	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増減
売上高	2,967	3,001	34
営業利益	82	50	△ 31
利益率	2.8%	1.7%	-

増収・減益

- STG(特に単体)で**増収**
- 工メは増益も、駆動(単体)の収益低下と軸受の販売減により**大幅減益**

欧州

(億円)



(億円)

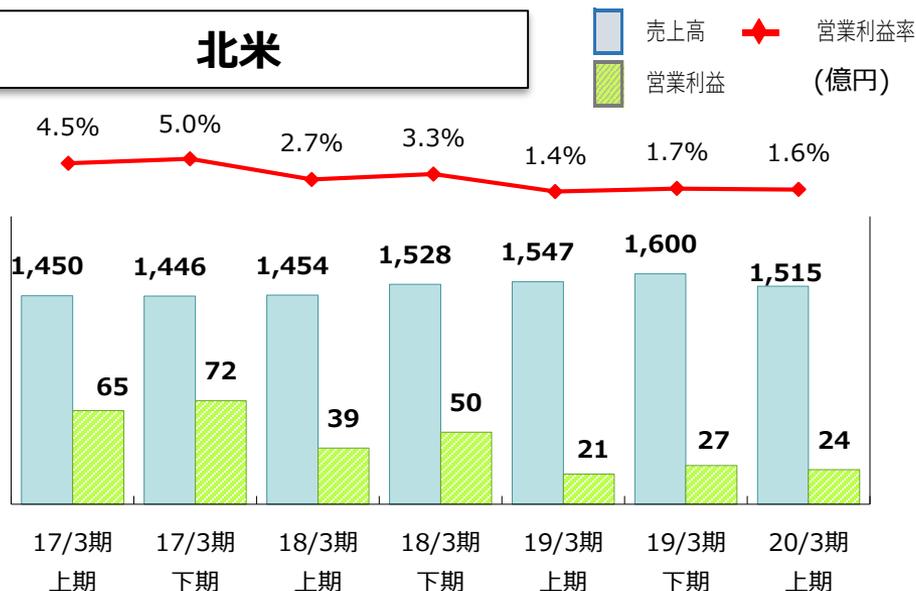
	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増減
売上高	1,132	1,032	△ 99
営業利益	△ 14	△ 22	△ 8
利益率	△ 1.2%	△ 2.1%	-

減収・減益

- 全事業で減収、特に軸受が**大幅減収**
- STGの収益低下と軸受の販売減により**大幅減益、赤字継続**

1-5) 法人所在地別業績②

北米



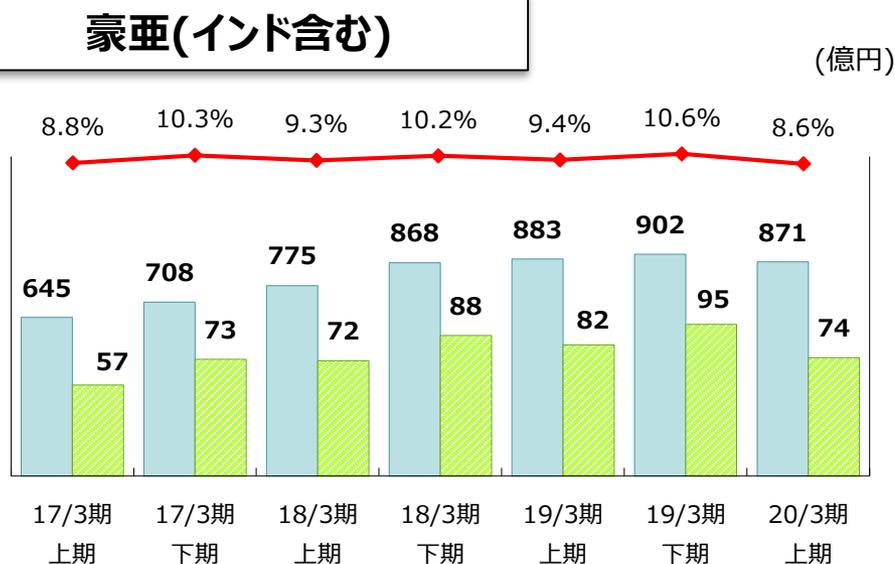
(億円)

	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増減
売上高	1,547	1,515	△ 31
営業利益	21	24	3
利益率	1.4%	1.6%	-

減収・増益

- STG・駆動で増収も、軸受の販売減により**減収**
- 軸受は大幅減益も、STGの増収効果や駆動の収益改善により、**増益**

豪亜(インド含む)



(億円)

	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増減
売上高	883	871	△ 12
営業利益	82	74	△ 8
利益率	9.4%	8.6%	-

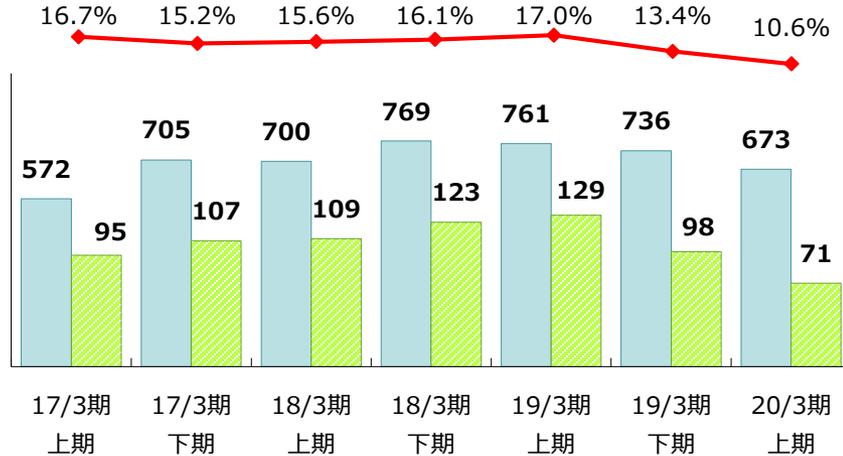
減収・減益

- STGを除き販売が落ち込み**減収**
- インド自動車市況の低迷の影響を受け、STG・軸受にて**減益**

1-6) 法人所在地別業績③

中国

売上高 営業利益率
営業利益 (億円)



(億円)

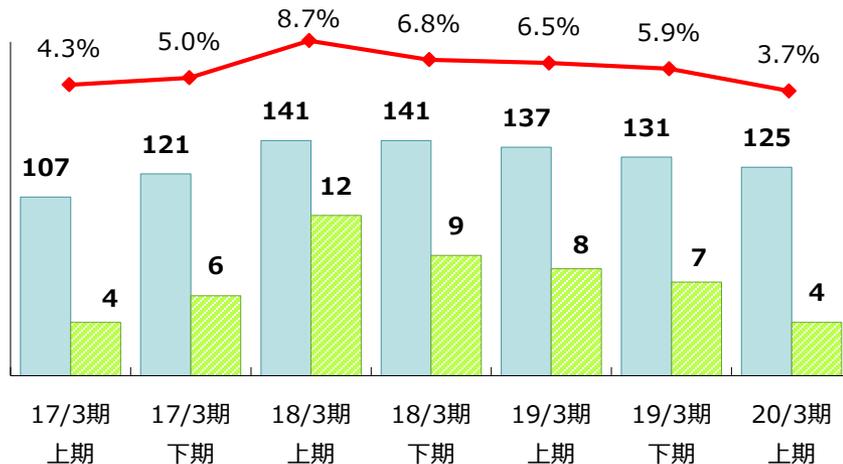
	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増減
売上高	761	673	△ 87
営業利益	129	71	△ 58
利益率	17.0%	10.6%	-

減収・減益

- 景気減速による需要減の影響で、部品事業全てで大幅減収
- 特にSTGの収益が大きく悪化、大幅減益

南米他

(億円)



(億円)

	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増減
売上高	137	125	△ 12
営業利益	8	4	△ 4
利益率	6.5%	3.7%	-

減収・減益

- STG・軸受の販売減により減収
- STGの収益低下により大幅減益

1. 2020年3月期 第2四半期業績

2. 2020年3月期 通期業績予想

3. 事業別の状況

世界経済

- 米中貿易摩擦の激化により、先々の需要は依然として不透明
- 英国のEU離脱をめぐる不確実性や欧州の景気低迷を受け、製造業を中心に減速基調

日本

- 世界経済の減速に伴い輸出が弱含み
- 消費税率引き上げにより、消費減退の懸念あり

2-2) 2020年3月期 業績予想

円高の進行や需要減少による販売減等により、
減収・減益の計画へ見直し

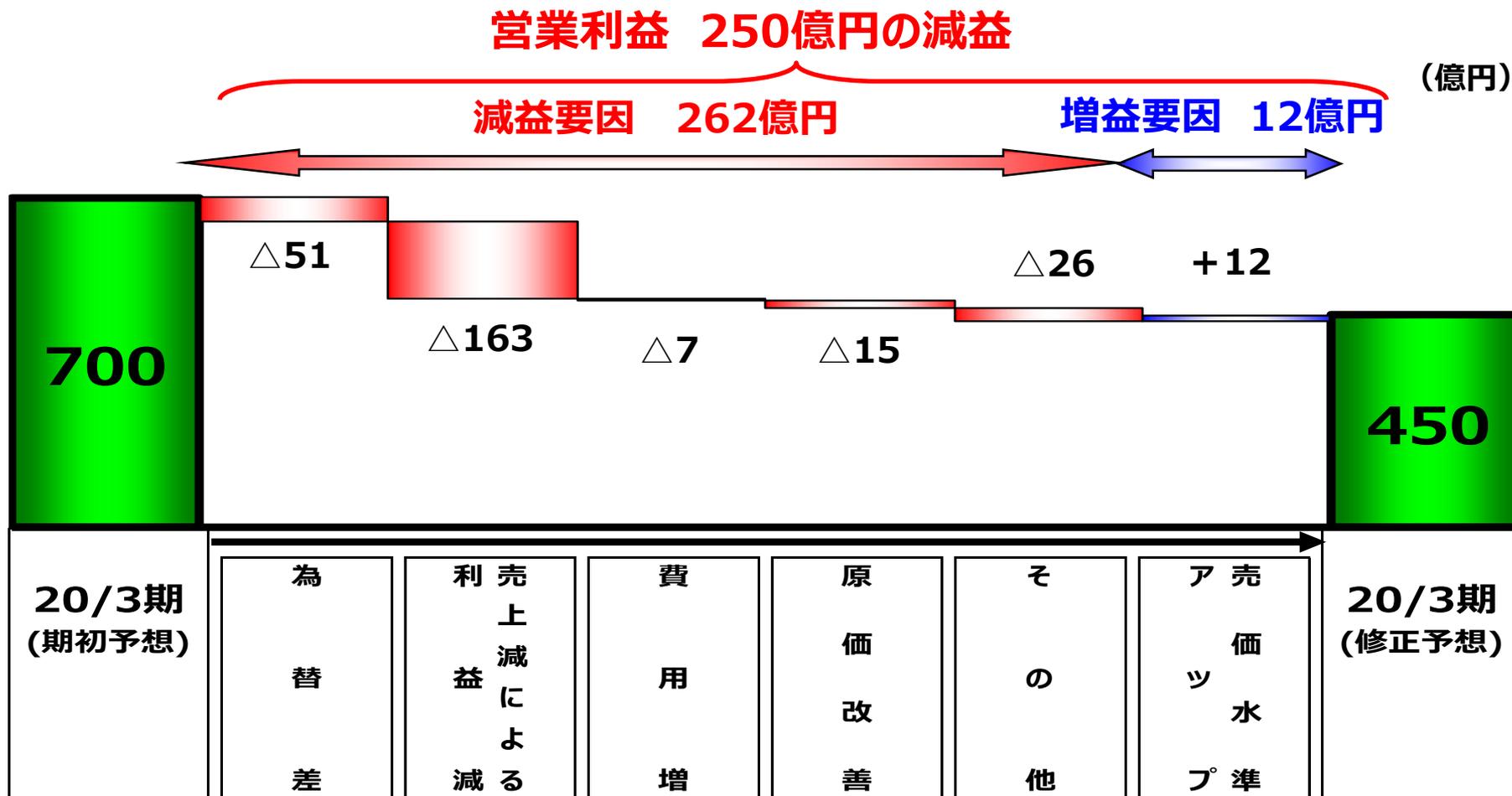
(億円)

	19/3期 通期(実績)	20/3期(予想)			増減額	増減率	20/3期 期初予想
		上期	下期	通期			
売上高	15,208	7,219	7,180	14,400	△ 808	△ 5.3%	15,300
営業利益	(4.4%) 666	(2.9%) 211	(3.3%) 238	(3.1%) 450	△ 216	△ 32.4%	700
経常利益	(4.6%) 696	(3.1%) 224	(3.4%) 245	(3.3%) 470	△ 226	△ 32.5%	720
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.6%) 246	(0.7%) 47	(1.9%) 132	(1.3%) 180	△ 66	△ 27.0%	400
為替レートの (4月～3月)	110.91円/USD 128.41円/EUR	108.63円/USD 121.42円/EUR	105.00円/USD 115.00円/EUR	107.00円/USD 118.00円/EUR	3.91円 円高 10.41円 円高		110.00円/USD 120.00円/EUR
設備投資額	752	355	484	840	+ 88	+ 11.7%	890
減価償却費	669	319	330	650	△ 19	△ 2.8%	670
研究開発費	(4.2%) 636	(4.5%) 324	(4.7%) 335	(4.6%) 660	+ 23	+ 3.7%	680
配当金	44円	22円	22円	44円	—		44円

() は、売上高利益率

2-3) 営業利益の増減分析 (期初予想 vs 修正予想)

売価アップに取り組むも、円高の進行および大幅な需要減少への転換等により、営業利益450億円へ下方修正

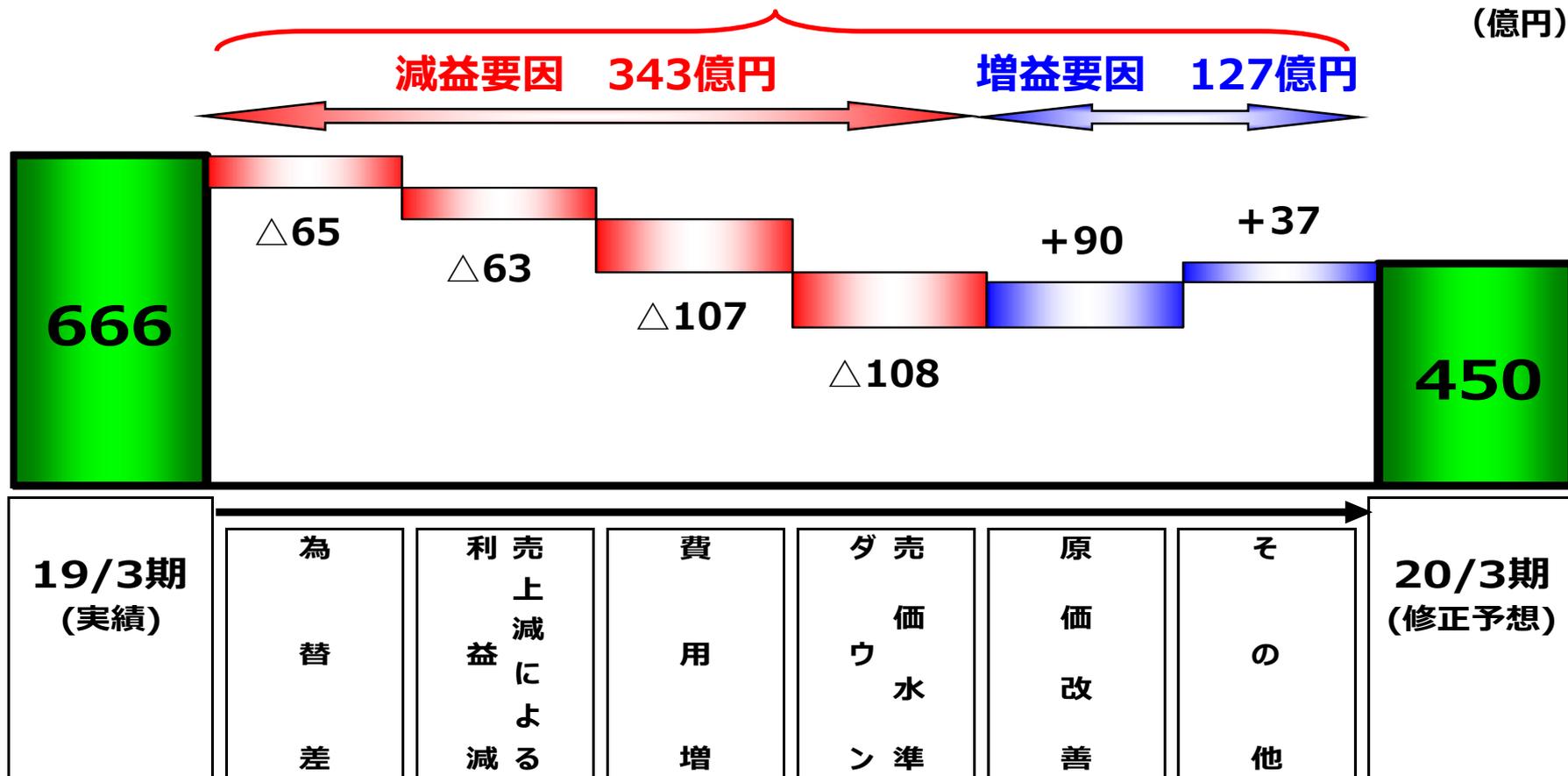


2-4) 営業利益の増減分析 (前期実績 vs 修正予想)

円高や需要減少による販売減に加え、売価水準ダウンや費用増を原価改善でカバーできず、大幅減益

営業利益 216億円の減益

(億円)



1. 2020年3月期 第2四半期業績

2. 2020年 3月期 通期業績予想

3. 事業別の状況

1)ステアリング事業

【略語の説明】

SBW (Steer By Wire : ステア・バイ・ワイア)

RP-EPS (Rack Parallel-EPS : ラックパラレルタイプ電動パワーステアリング)

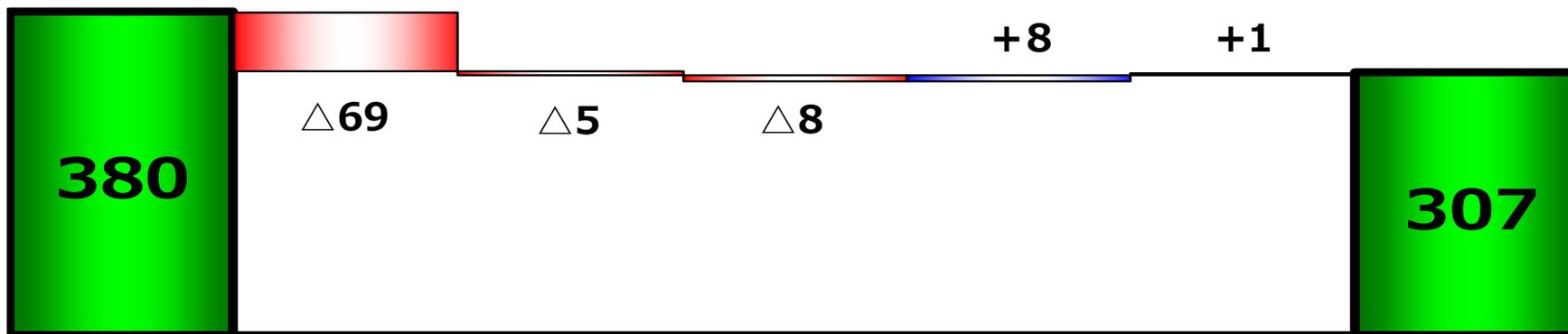
DP-EPS (Dual Pinion-EPS : デュアルピニオタイプン電動パワーステアリング)

3-1-1) 営業利益の増減分析 (期初予想 vs 修正予想)

インド、中国を代表とする自動車市場の停滞による売上減と、対策を進めているラックアシストEPS立上げの原価目標未達により予想を修正

営業利益 73億円の減益

経営レート：95円/\$ 110円/€



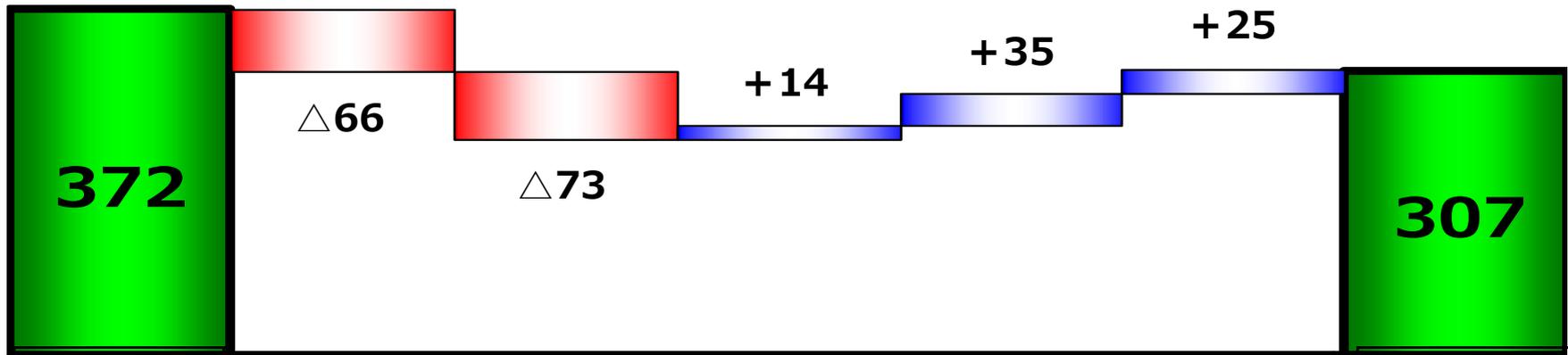
20/3期 (期初予想)	利 売 上 減 益 による 減 る	原 価 改 善	そ の 他	ア 売 価 ツ 水 プ 準	費 用 減	20/3期 (修正予想)
	→					

3-1-2) 営業利益の増減分析 (前年実績 vs 修正予想)

ラックアシストEPSへの切替えによる償却費増、並びに先進システム開発のための研究開発費増により減益
一方でラックアシストEPSの原価改善は着実に推進

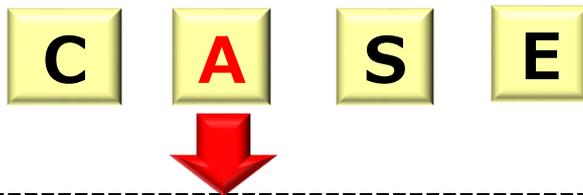
営業利益 65億円の減益

経営レート：95円/\$ 110円/€



19/3期 (実績)	費用増	売上単価水準	売上増による利益増	原価改善	その他	20/3期 (修正予想)
---------------	-----	--------	-----------	------	-----	-----------------

ステアリングシステム先進技術のトップランナーとして 自動運転時代をリードし続けるための先行開発投資



自動運転の実現に向けた技術・製品開発



車いすでの乗車の様子
(±40~20mmでの幅寄せ、停止)



トラック隊列走行イメージ

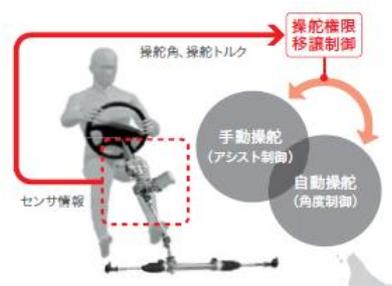
<開発リソースの強化>



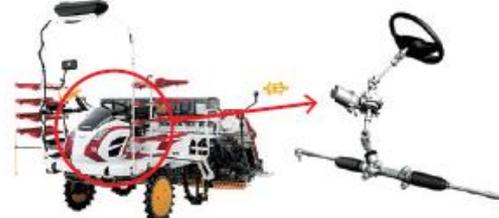
<次世代公共交通・物流システム>



<リンクレスSBW>



<操舵権限移譲>



<インタアシスタタイプ°EPS>

ステアリング
市場において
No.1 &
Only One
であり続ける

ラックアシストEPSの原価改善が進み企画値をほぼ達成

要因 ラックアシストEPS立上げの原価目標未達

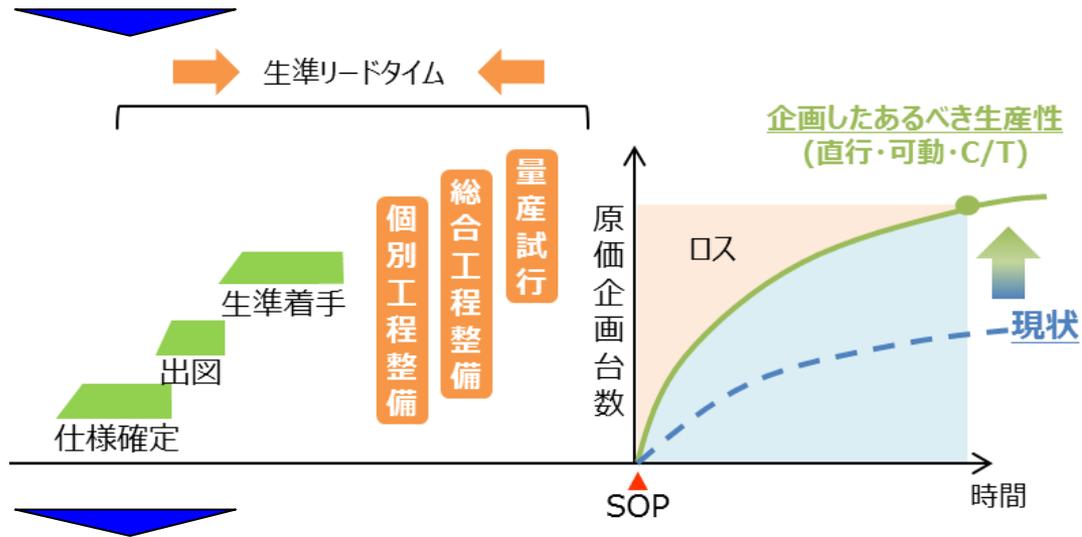
プレミアム車両のラックアシストEPSを受注するも、車両での要求性能レベルが想定以上で生産準備と同時並行で設計変更発生し、量産立上げが難航

対策

- 【開発・生産準備の先手化】
- ・基盤技術向上による要求性能達成
 - ・製品、生産工程の同時並行開発
 - ・生準リードタイムの短縮とSE活動

結果

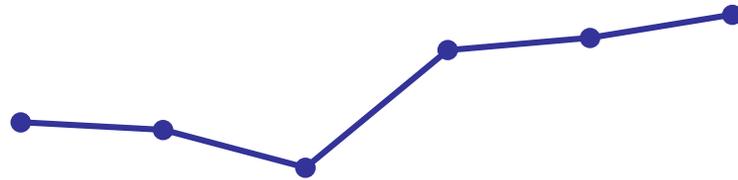
- ・19年上期：SOP2週間以内での企画値達成率：94%



3-1-4) 要因と対策 (ラックアシストEPSの可動率)

更なる生産性改善を進め、収益力向上を図るとともに、今後のプロジェクトの立上げを円滑に進める

◆日本 (花園工場)



'18/1Q '18/2Q '18/3Q '18/4Q '19/1Q '19/2Q

◆北米 (ボノア工場)



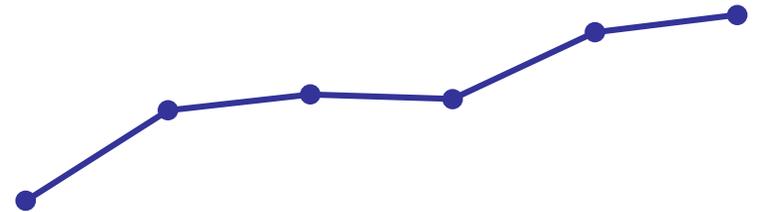
'18/1Q '18/2Q '18/3Q '18/4Q '19/1Q '19/2Q

◆欧州 (フランス工場)



'18/1Q '18/2Q '18/3Q '18/4Q '19/1Q '19/2Q

◆中国 (厦門工場)



'18/1Q '18/2Q '18/3Q '18/4Q '19/1Q '19/2Q

2) 駆動事業

【略語の説明】

AWD (All Wheel Drive : 四輪駆動)

CVJ (Constant Velocity Joints : 等速ジョイント)

EOP (Electric Oil Pump : 電動オイルポンプ)

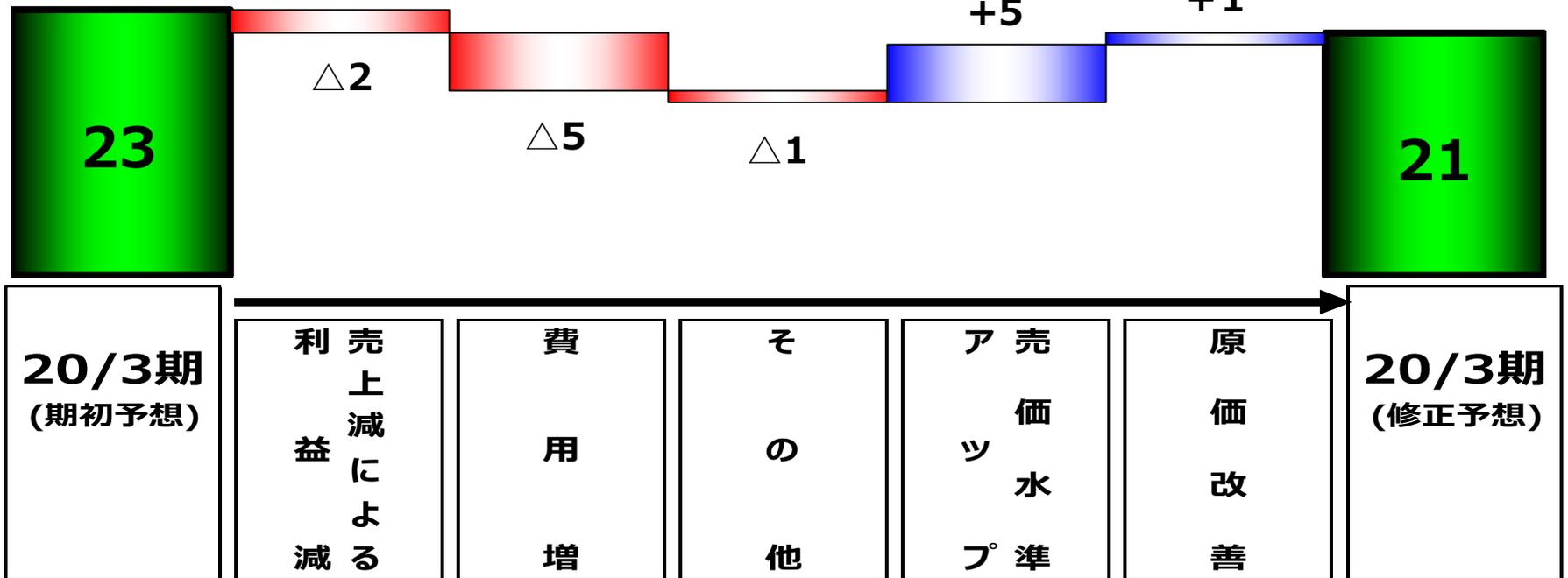
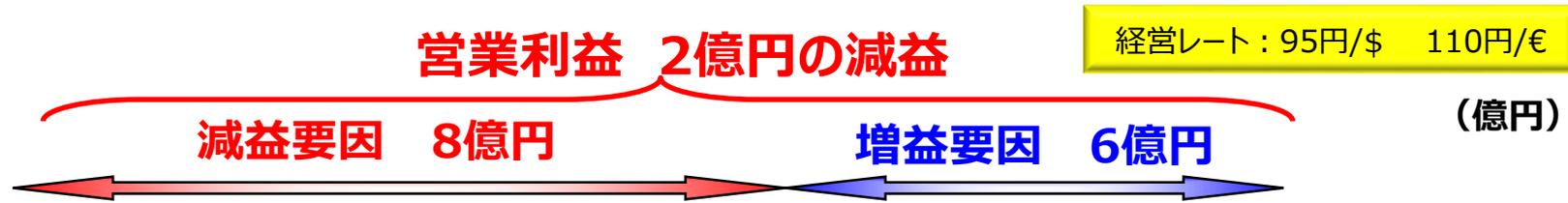
ITCC (Intelligent Torque Controlled Coupling : 電子制御カップリング)

MOP (Mechanical Oil Pump : 機械式オイルポンプ)

トルセン (Torque Sensing Limited Slip Differential : トルク感応型差動制限装置)

3-2-1) 営業利益の増減分析 (期初予想 vs 修正予想)

技術研究費を中心とした費用増はあるが、原価改善により
ほぼ計画通り



3-2-2) 営業利益の増減分析 (前期実績 vs 修正予想)

将来に向けた技術開発のための費用増と売価ダウンにより減益
原価改善による利益確保で減益幅縮小

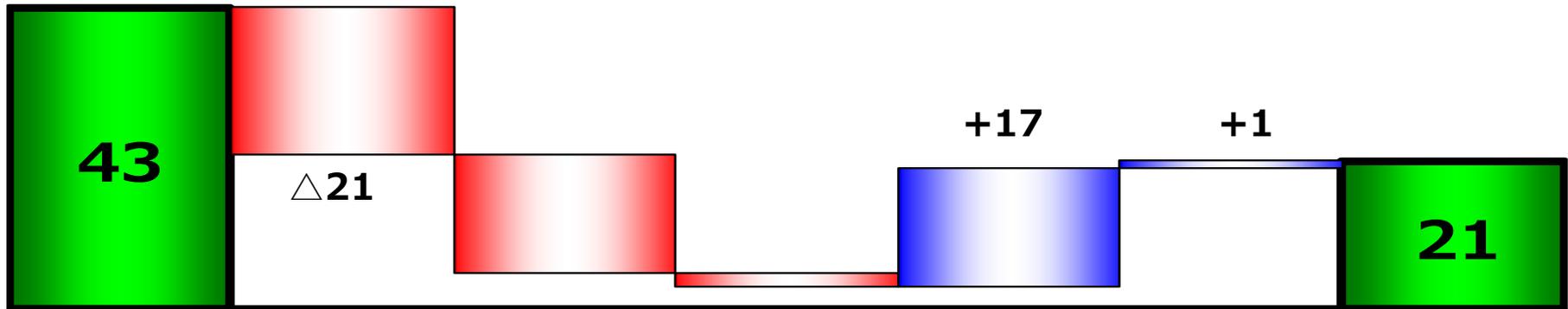
営業利益 22億円の減益

経営レート：95円/\$ 110円/€

減益要因 40億円

増益要因 18億円

(億円)



△17

△2

19/3期
(実績)

費用増

売価
ダウン

売上
減による
利益減

原
価
改
善

そ
の
他

20/3期
(修正予想)

3-2-3) 要因と対策 (研究開発費)

電動化時代を生き抜くための先行開発投資を強化
電動化・コンベンショナルの両面でトップランナーを目指す

C

A

S

E



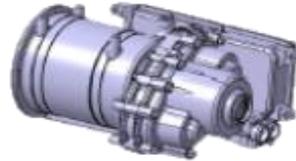
電動化時代に対応した魅力ある製品開発

電動化対応

コンベ対応



<モーター冷却用EOP>



<E-AWD >



<CVJ>



<トルセン >



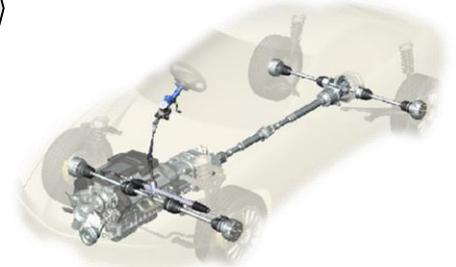
<ITCC >



<プロペラシャフト >

今後も需要が続くコンベ向け製品開発

駆動事業の
No.1&Only
One^



関連組織一体の原価改善活動で利益目標達成を目指す

関連組織連携による
原価低減活動(大部屋活動)

大部屋活動

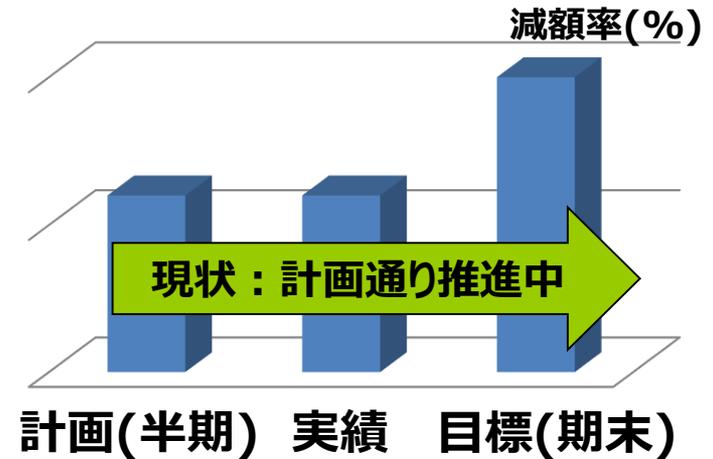
開発

調達

生産

連携

原価低減による利益確保



【主な対象製品】



<ドライブシャフト>



<プロペラシャフト>



<トルセン>



<ITCC>



<MOP>



<EOP>

3)軸受事業

(略語一覧)

TRB (Tapered Roller Bearing: テーパーローラベアリング)

HUB (ハブユニット)

3-3-1) 営業利益の増減分析 (期初予想 vs 修正予想)

国内・海外における客先需要減による売上減を
原価改善でカバー出来ず予想を修正

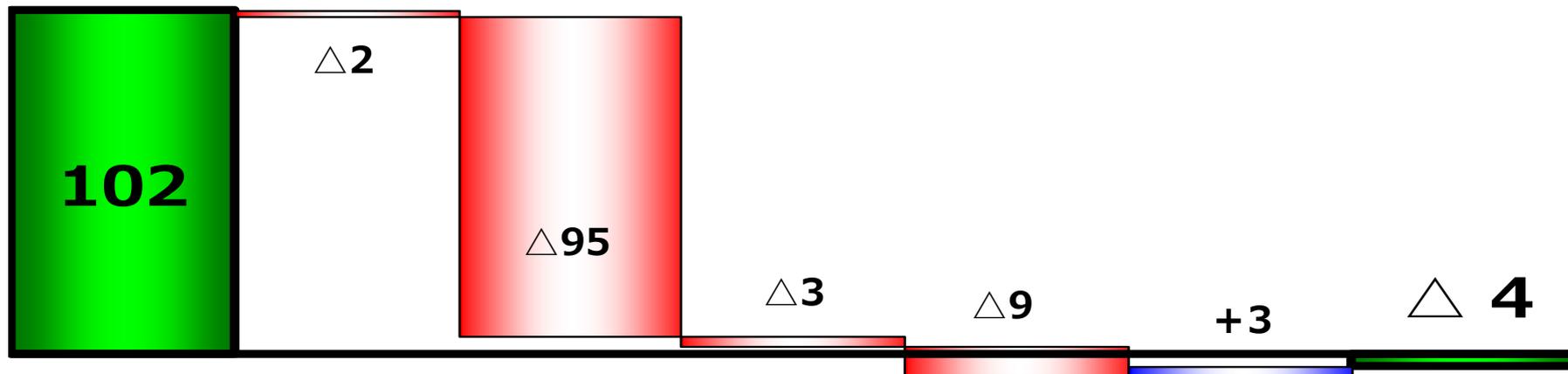
営業利益 106億円の減益

経営レート：95円/\$ 110円/€

減益要因 109億円

増益要因 3億円

(億円)



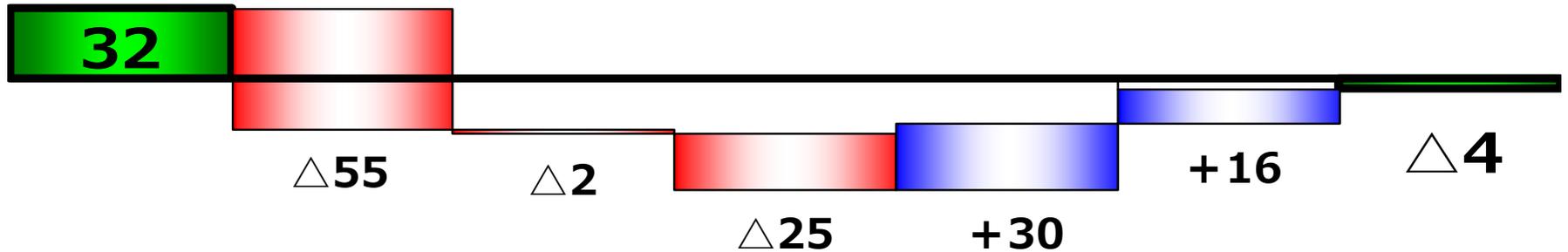
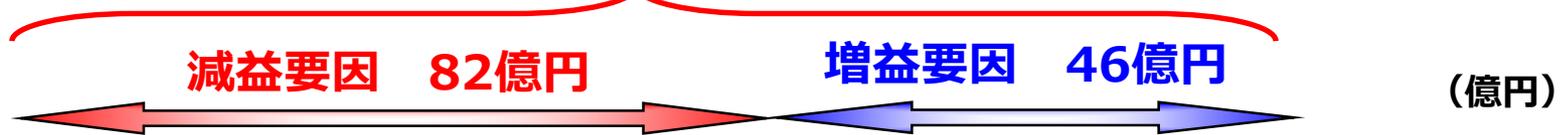
20/3期 (期初予想)	費用増	売上減による 利益減	売価水準	原価改善	その他	20/3期 (修正予想)

3-3-2) 営業利益の増減分析 (前期実績 vs 修正予想)

原価改善を進めるも減収の影響等をカバーできず減益
引続き国内・海外で体質改善を図る

営業利益 36億円の減益

経営レート：95円/\$ 110円/€



19/3期 (実績)	利 売	費	ダ 売	原	そ	20/3期 (修正予想)
	益 上	用	価 売	価	の	
	減 減	減	ウ 価	改	他	
	による		水	善		
	減		準			

3-3-3) 要因と対策 (生産性)

可動率向上と無人稼働拡大による生産性向上

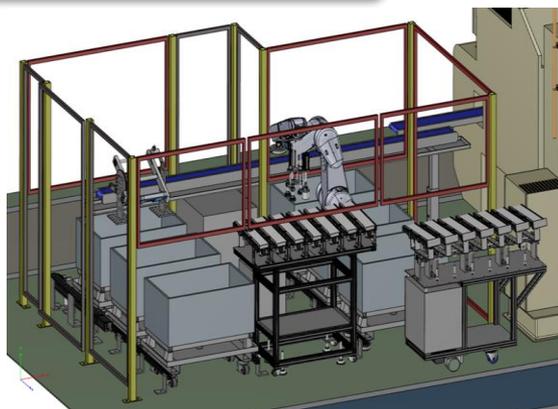
主な要因	要因分析	今後の取組み
①生産改善未達	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の保全、老朽化更新進まず可動率が悪化 ・無人化に向けた低頻度停止対策不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・保全体制強化と老朽化対策推進による可動率向上 ・IoEを活用した監視システムによる停頻度停止対策、予防保全 ・無人稼働拡大による設備生産性向上

【無人稼働拡大】

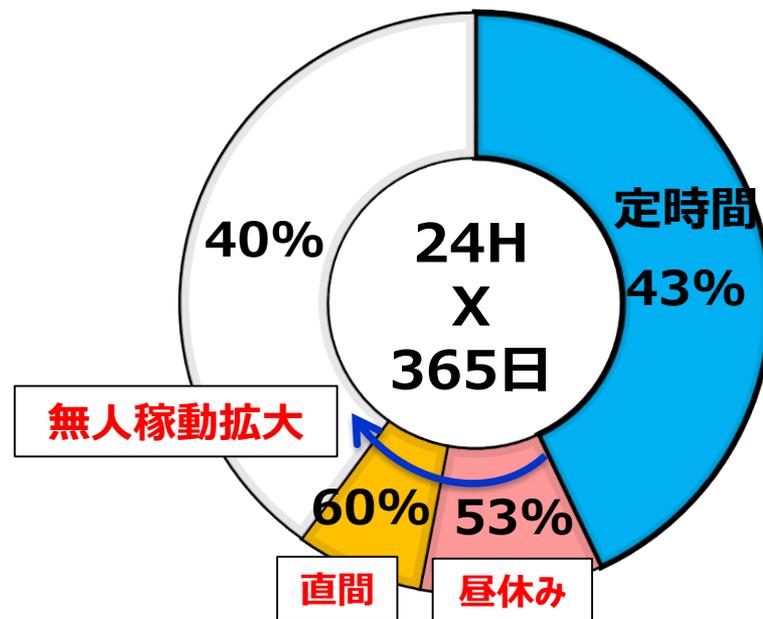
亀山工場 (HUBライン)



自動運搬



内外輪自動供給

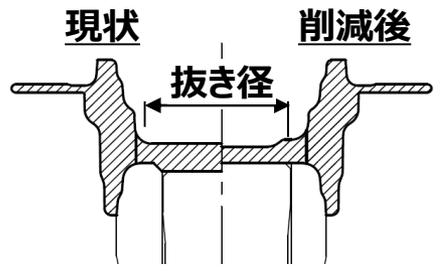


材料歩留り改善による直材費改善で競争力強化

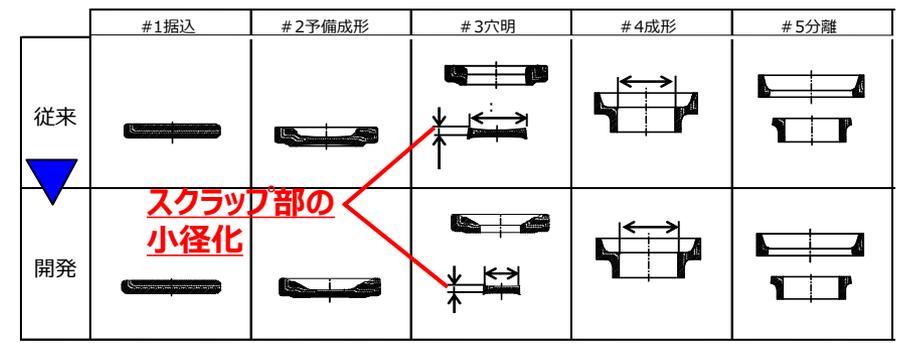
主な要因	要因分析	今後の取組み
②直材費改善遅れ (鋼材値上対策)	<ul style="list-style-type: none"> 歩留り改善進めるも追いつかず → 工法からの見直し必要 現地材/グローバル安価材活用拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 歩留り改善 (取り代の考え方変更) 革新的工法による出来高向上 海外テクセン含めた評価体制の充実

【スクラップ重量削減】

HUB : スクラップ部の薄肉化



TRB : スクラップ部の小径化 【温間鍛造工法変更】



主な工法	改善率	SOP
金型変更 (外輪スクラップ重量、取代、トリム削減)	10%	'20/2
閉塞ダイセットによる外輪余肉レス	11%	'21年

主な工法	改善率	SOP
温間鍛造工法変更 (内輪取代、スクラップ重量削減)	10%	'20/6
曲出し鍛造による穴明径の小径化	11%	'21年

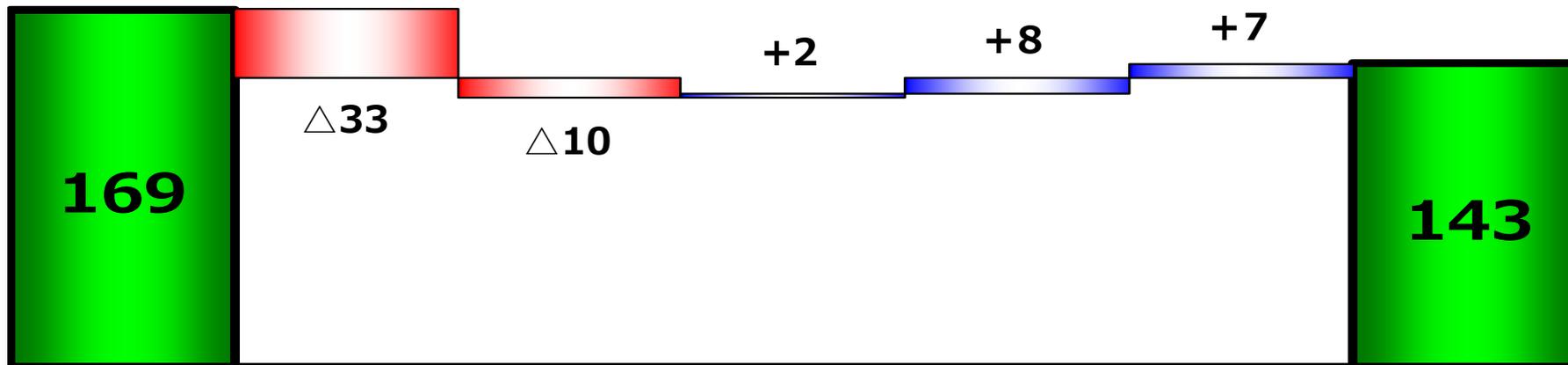
4) 工作機械・メカトロ事業

3-4-1) 営業利益の増減分析 (期初予想 vs 修正予想)

売価/原価改善・経費削減の効果があるも、
工作機械の市況悪化の影響を受け予想を修正

営業利益 26億円の減益

経営レート：95円/\$ 110円/€



20/3期 (期初予想)	利益	その他	売上	原価	費用	20/3期 (修正予想)
	減		水	改善	減	
	による		標準			
	減					

3-4-2) 営業利益の増減分析 (前期実績 vs 修正予想)

工作機械の市況悪化、米中関税の影響、
半導体需要の減少等により減益

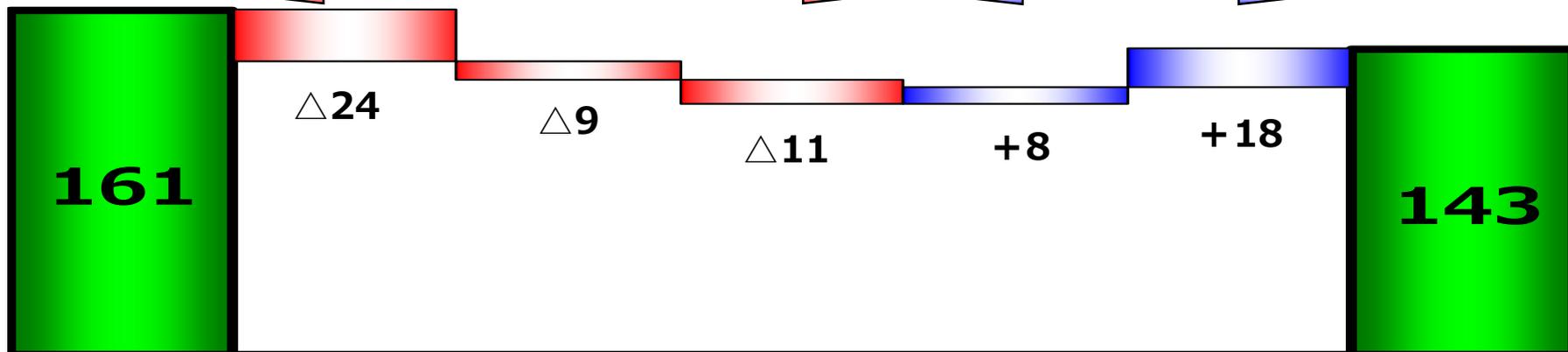
経営レート：95円/\$ 110円/€

営業利益 18億円の減益

減益要因 44億円

増益要因 26億円

(億円)



19/3期
(実績)

利 売
上 減
益 による
減

費
用
増

そ
の
他

ア 売
価
ツ 水
プ 準

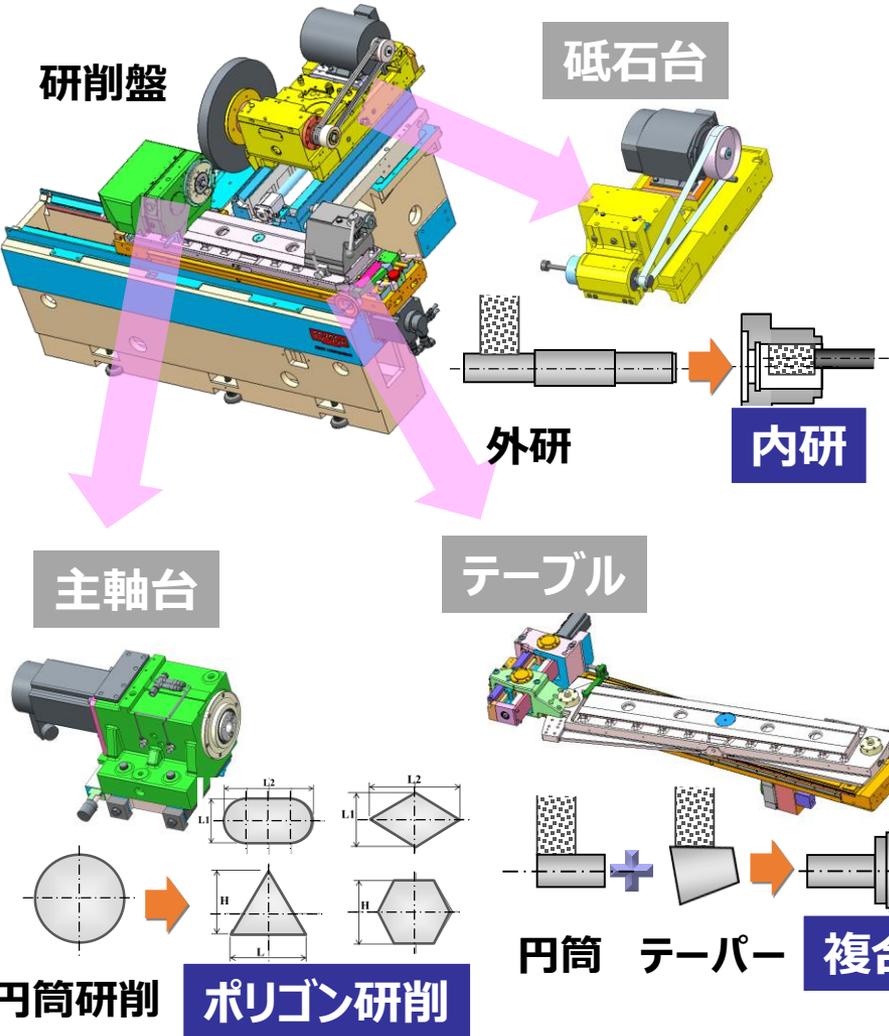
原
価
改
善

20/3期
(修正予想)

3-4-3) 要因と対策 (構造改革)

モジュール開発で
タイムリーな市場投入

生産リードタイムにこだわった
モノづくり改革



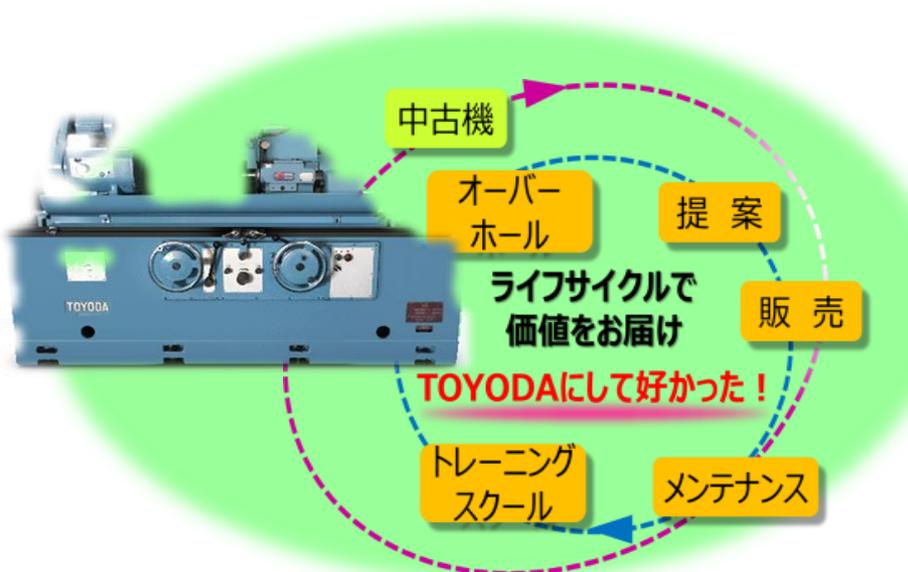
モノの流れの整流化



ジャストインタイム供給

3-4-4) 要因と対策 (景気に左右されない体質づくり)

ライフサイクルサポート強化で 収益基盤の強化



生産性向上提案

JTEKT NoE Solution

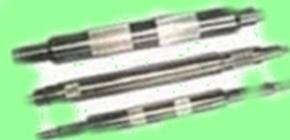


高剛性高速スピンドル 高機能操作盤

伸びる市場・分野へのシフト加速

EV対応ラインアップ強化

モータシャフト



減速機偏心シャフト



研削盤



減速機ギヤ



スカイビング

高精度加工ロール



5G・半導体

パワー半導体ウェハ



研削・熱処理

生産システムを提供するラインビルダー

5) トピックス

量産ラインによるサンプル供給開始

・サンプル受注状況 ('19/9末現在)

業種	顧客件数	受注・納入数 (セル)	内示数 (セル)
産業機械	19	280	3,100
自動車	7	150	210
合計	26	430	3,310

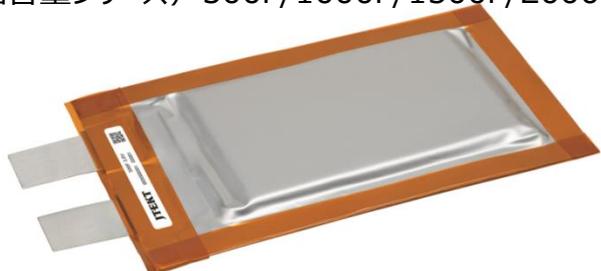
引合～サンプル（顧客評価用）評価いただき、
正式受注に繋げる活動が本格化

（用途）高出力化、バックアップ、電源置換え 等

・生産状況

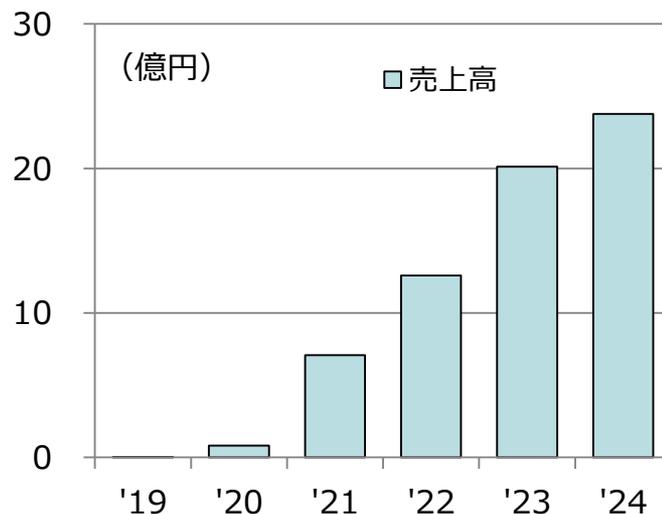
サンプル生産でカタログ標準品の製品品質の向上を図り、産業機械用途を先行し、自動車向け量産に対応

（製品容量シリーズ）500F/1000F/1500F/2000F



キャパシタの一例（500Fセル 片出し品）

・業績予測（セル単体）



キャパシタ棟@花園工場 '19/10～生産開始

シナジーを創出し駆動事業の基盤強化を目指す



デフ・歯車技術



デフAssy/ギア

歯車

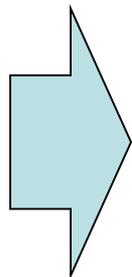


トルクコントロールデバイス



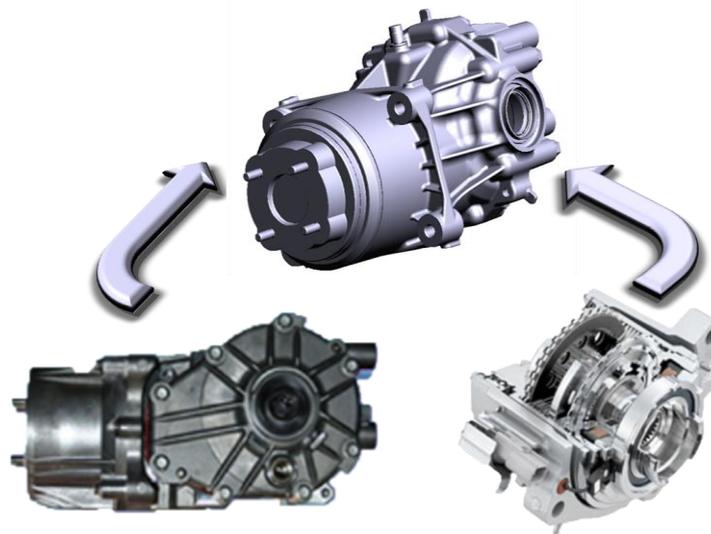
ITCC

トルセン



● ITCC一体デフユニット

小型・軽量・コスト減



● 生産の最適化

5-3) 北米事業の再編

拠点再編によりグローバルで最適供給体制を構築

- ステアリング工場
- ▼ 軸受工場



5-3-1) 北米ステアリング事業の課題と対策

拠点再編により北米内における最適供給体制を構築

現状

工場	油圧	電動 (ラックアシスト)
ボノア	○	○
メキシコ	-	○
テキサス	○	-

同一製品の生産
 搭載タイプ変更

再編後

工場	油圧	電動 (ラックアシスト)
ボノア	○	○
メキシコ	-	○
テキサス	閉鎖	

課題

- 同一製品を複数工場生産
 - 顧客の搭載ステアリングタイプ変更に伴う物量減 (油圧→電動化)
- 油圧製品の物量減によりテキサス工場の継続困難

対策

- 生産品目と工場の整理
 - 油圧製品はテネシー工場へ移管
 - 電動製品はテネシーとメキシコ工場生産
- テキサス工場閉鎖

テーパローラーベアリングのグローバル最適供給体制を構築

現状

工場	TRB	TRB用ローラー
香川	○	
ワシントン	○	
オレンジバーグ	○	○
ダロネガ	-	○

再編後

工場	TRB	TRB用ローラー
香川	○	
ワシントン	○	
オレンジバーグ	倉庫等で活用	
ダロネガ	-	○

課題

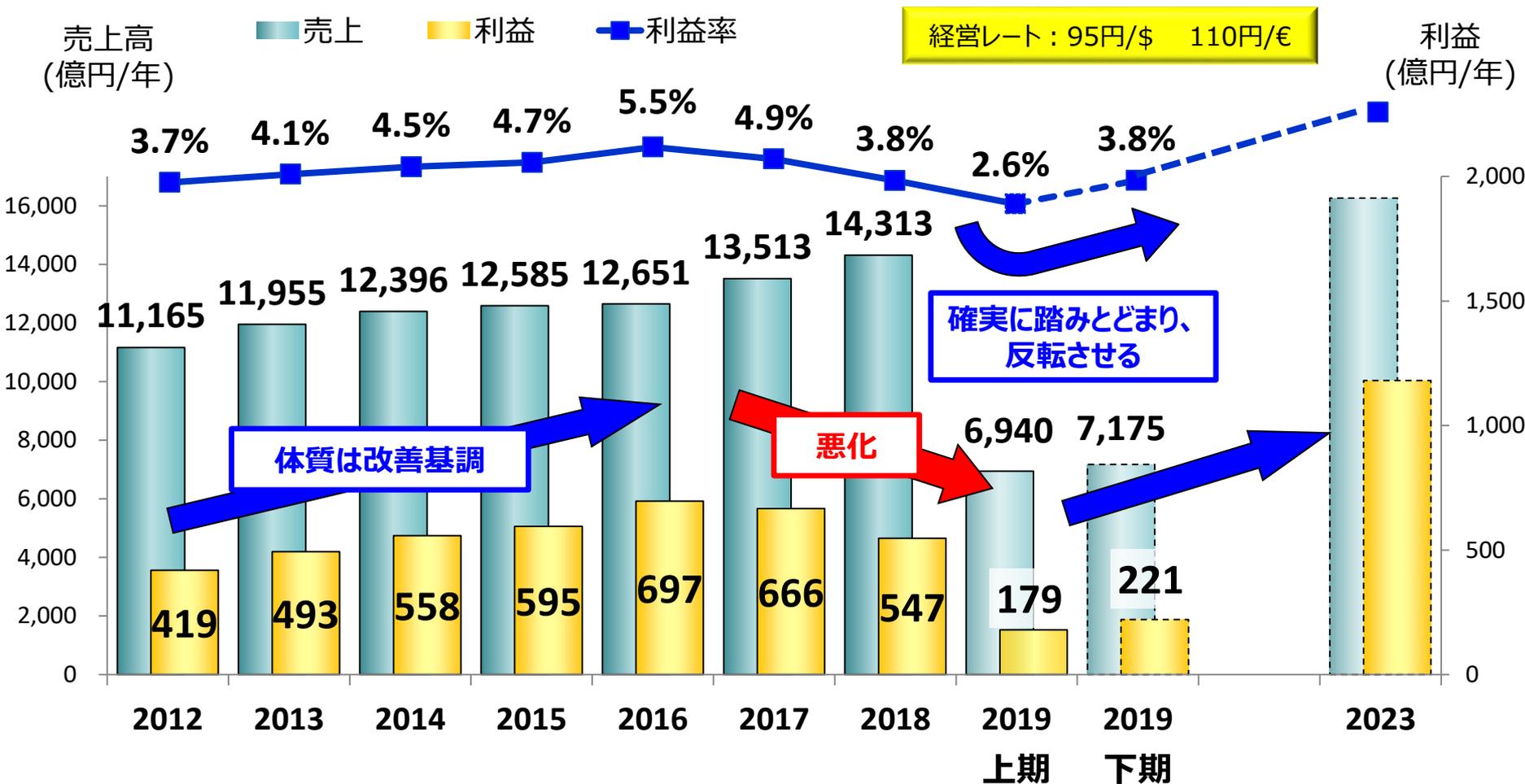
- 競争激化による物量減でオレンジバーグ工場の収益性悪化
 - オレンジバーグ工場の設備老朽化によるコスト増
- オレンジバーグ工場でのTRB生産継続困難

対策

- TRBをワシントン工場と香川工場へ移管
 - 自動化ラインの導入、人員配置適正化によるワシントン工場の生産性向上
- オレンジバーグ工場でのTRB生産中止

5-4) 損益の推移 (経営レート)

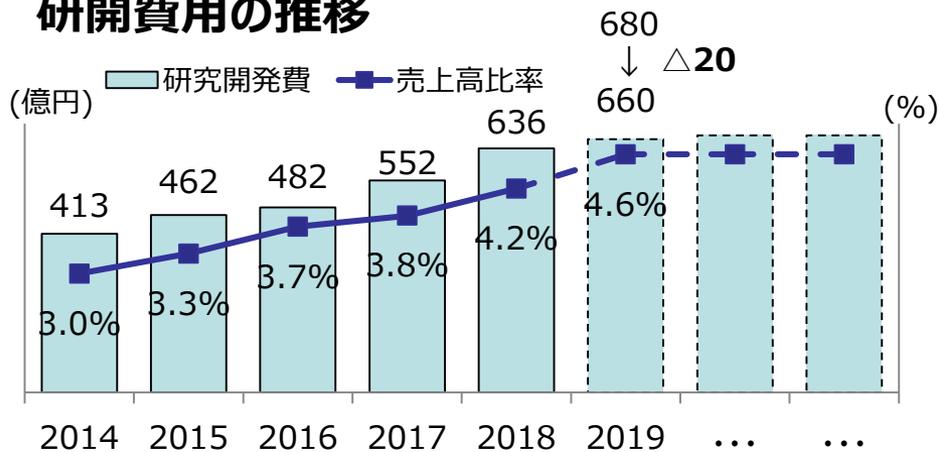
固定費の増加や収益性の低下に伴い利益は悪化傾向が継続
上期で確実に踏みとどまり、下期から反転させる



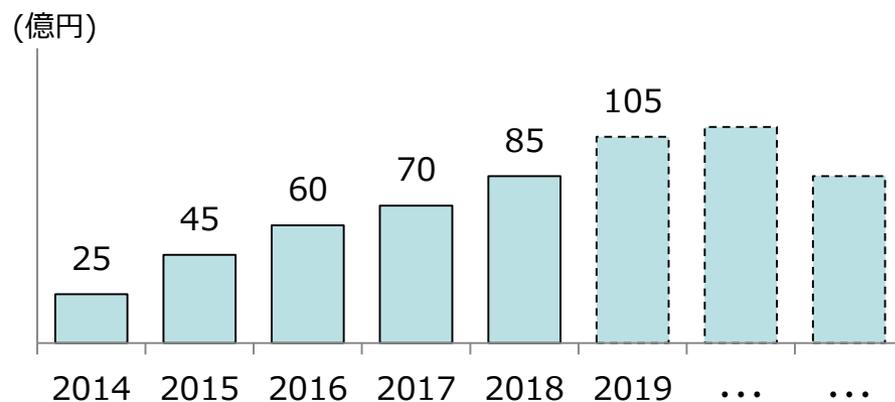
5-5) 固定費の状況

持続的成長のため、研究開発費や事業基盤への投資は継続するが、直近の業績を鑑み抑制

研開費用の推移

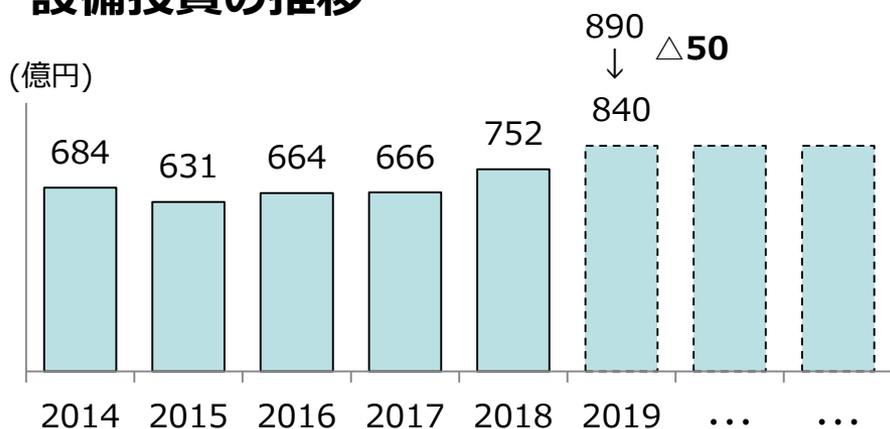


事業基盤関連費用※の推移



※業革・IT化、ブランド力向上、安全・災害対策、教育、新規事業育成等

設備投資の推移

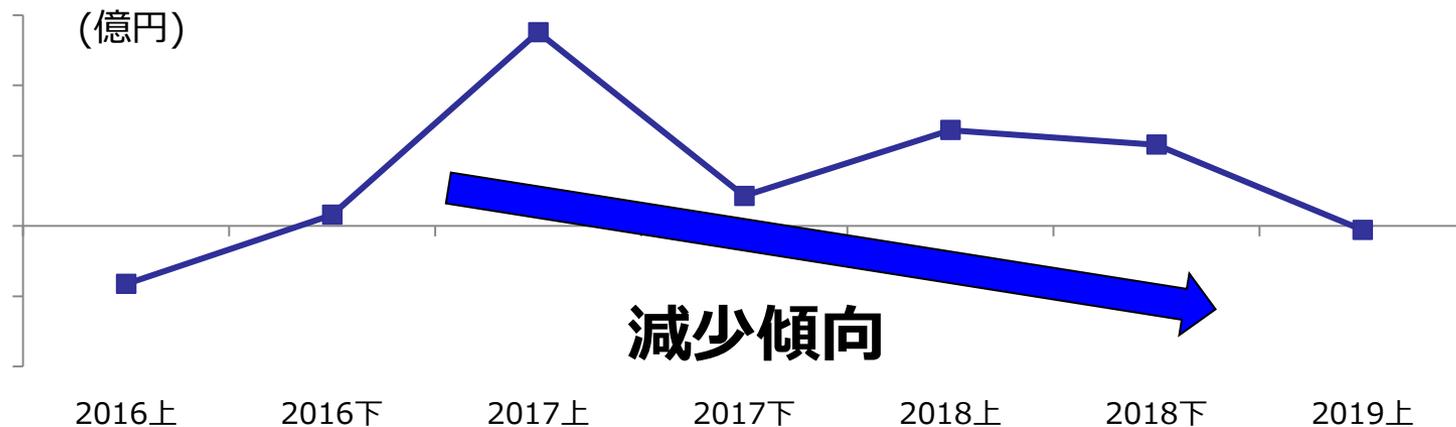


- 事業基盤構築への投資を積極的に行ってきたが、目途が付いたため、2020年をピークに横ばいの見通し
- 新規事業育成への投資を強化

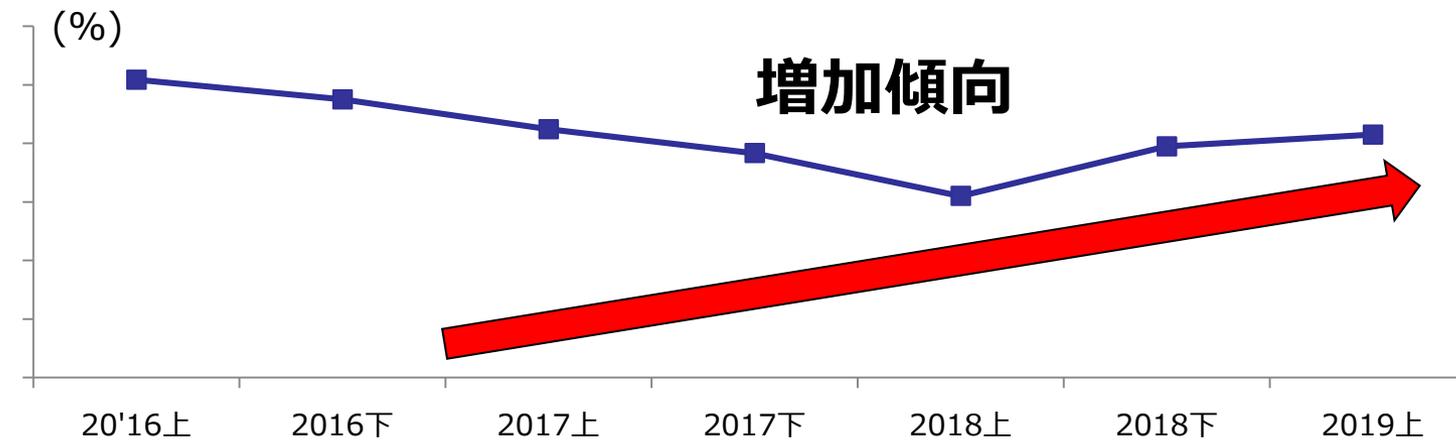
5-6) 調達改善の状況

'19年上期は改善傾向

<材料価格の推移(前期比)>

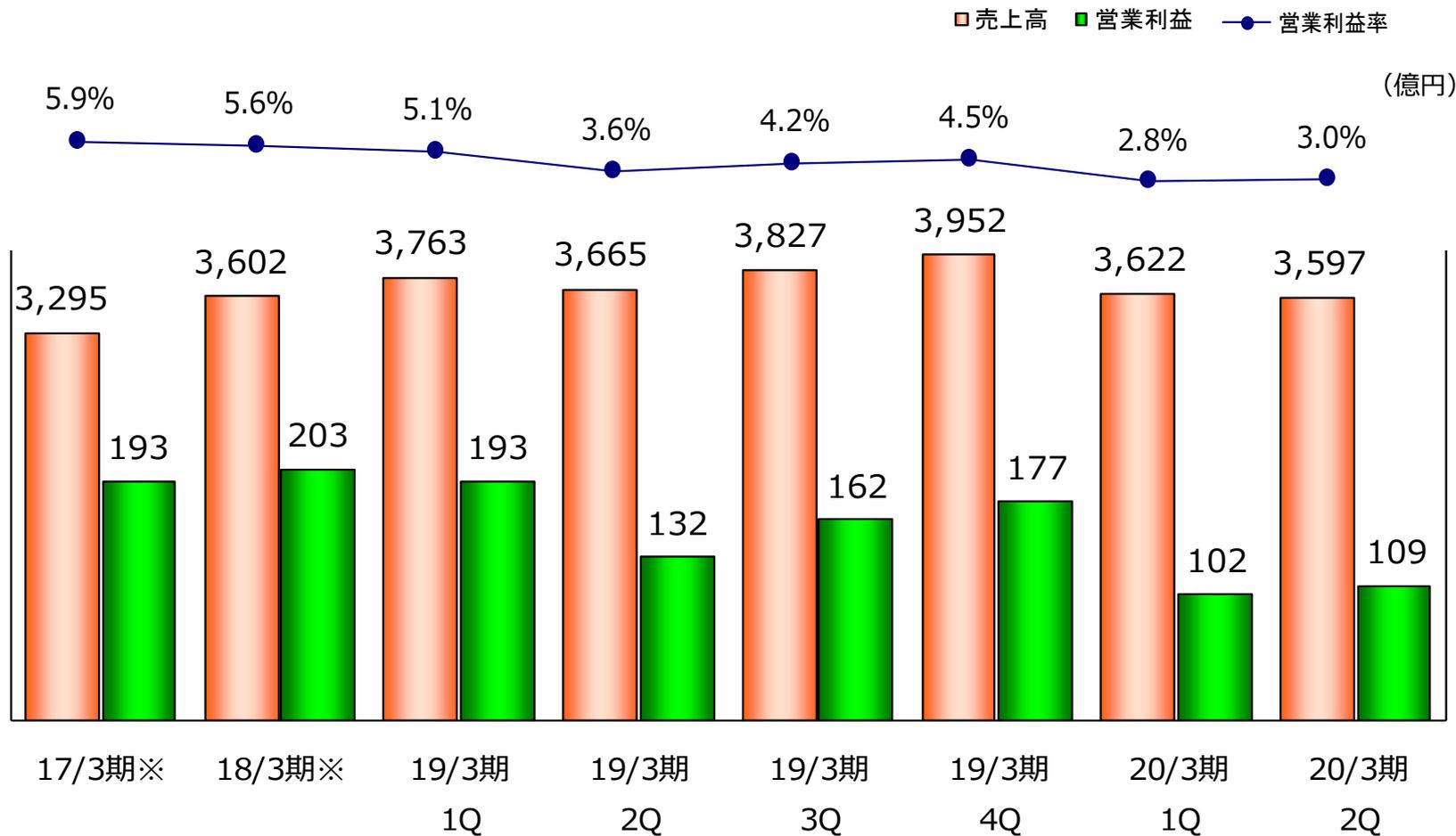


<調達価格改善率の推移(前期比)>



ご清聴ありがとうございました

(参考) 四半期業績推移



USD	108円	111円	109円	111円	113円	110円	110円	107円
EUR	119円	130円	130円	130円	129円	125円	123円	119円

※ 17/3期、18/3期は四半期平均。これ以降のスライドについても同様です。

(参考) 事業別売上高予想

(億円)

		19/3期 通期(実績)	20/3期(予想)			増減額	増減率
			上期(実績)	下期(予想)	通期(予想)		
機 械 器 具 部 品	ステアリング	7,707	3,696	3,703	7,400	△ 307	△ 4.0%
	駆 動	1,572	765	784	1,550	△ 22	△ 1.4%
	軸 受	4,178	1,940	1,839	3,780	△ 398	△ 9.5%
	【 合 計 】	13,458	6,401	6,328	12,730	△ 728	△ 5.4%
工 作 機 械 他	工 作 機 械	1,731	809	840	1,650	△ 81	△ 4.7%
	そ の 他	19	8	11	20	+ 0	+ 4.9%
	【 合 計 】	1,750	817	852	1,670	△ 80	△ 4.6%
【売上高合計】		15,208	7,219	7,180	14,400	△ 808	△ 5.3%

(参考) 法人所在地別売上高予想

(億円)

	19/3期 通期(実績)	20/3期(予想)		増減額	増減率
		上期(実績)	下期(予想)		
日本	6,196	3,001	2,958	5,960	△ 236 △ 3.8%
欧州	2,312	1,032	1,015	2,048	△ 264 △ 11.4%
北米	3,147	1,515	1,399	2,915	△ 232 △ 7.4%
豪亜 (インド含む)	1,786	871	888	1,760	△ 26 △ 1.5%
中国	1,497	673	801	1,475	△ 22 △ 1.5%
南米他	268	125	116	242	△ 26 △ 10.0%
【売上高合計】	15,208	7,219	7,180	14,400	△ 808 △ 5.3%

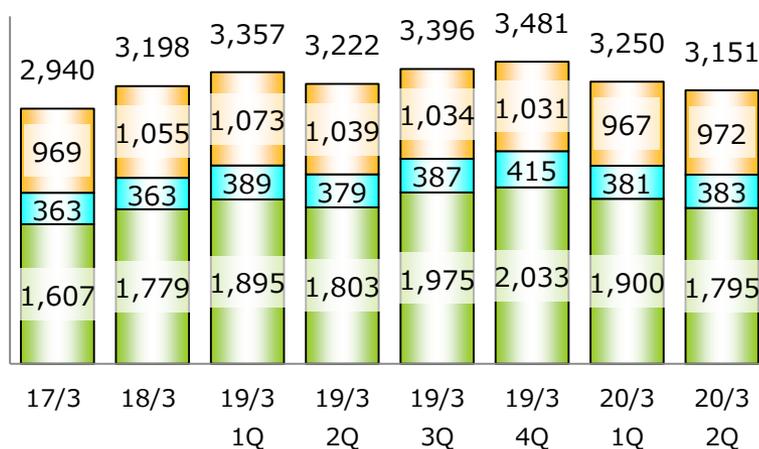
(参考) 事業別業績【機械器具部品】

(億円)

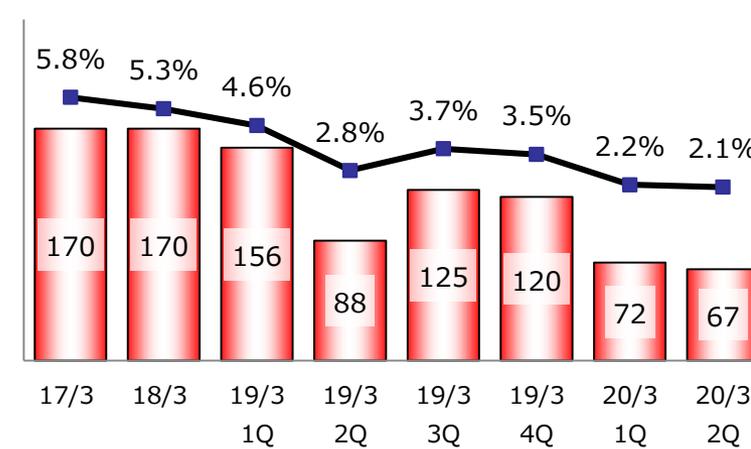
機 械 器 具 部 品		19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
ステアリング	売上高	3,698	3,696	△ 2	△ 0.1%
駆 動	売上高	769	765	△ 4	△ 0.6%
軸 受	売上高	2,112	1,940	△ 172	△ 8.1%
【 合 計 】	売上高	6,580	6,401	△ 178	△ 2.7%
	営業利益	244	139	△ 105	△ 43.2%
	利益率	3.7%	2.2%		

※「消去」は省略しております。

売上高四半期推移 (億円)



営業利益四半期推移 (億円)



(参考) 事業別業績【工作機械 他】

(億円)

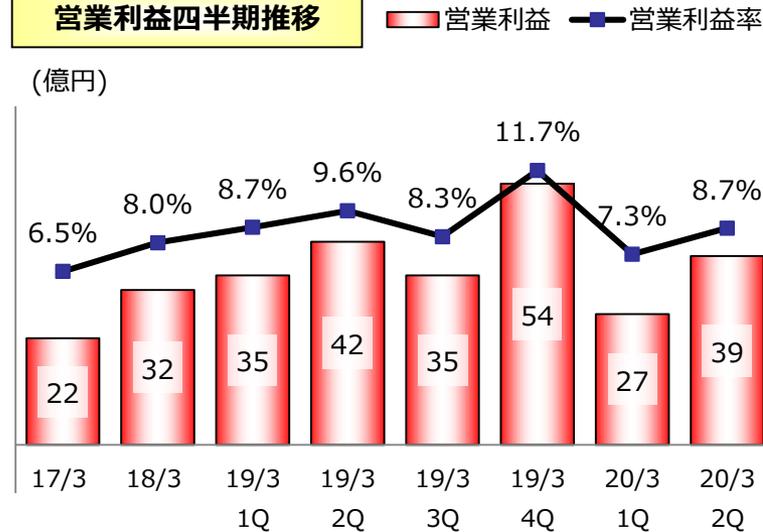
工 作 機 械 他		19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
工 作 機 械	売 上 高	840	809	△ 30	△ 3.6%
そ の 他	売 上 高	8	8	△ 0	△ 4.9%
【 合 計 】	売 上 高	848	817	△ 30	△ 3.7%
	営 業 利 益	77	66	△ 11	△ 14.7%
	利 益 率	9.2%	8.1%		

※「消去」は省略しております。

売上高四半期推移



営業利益四半期推移



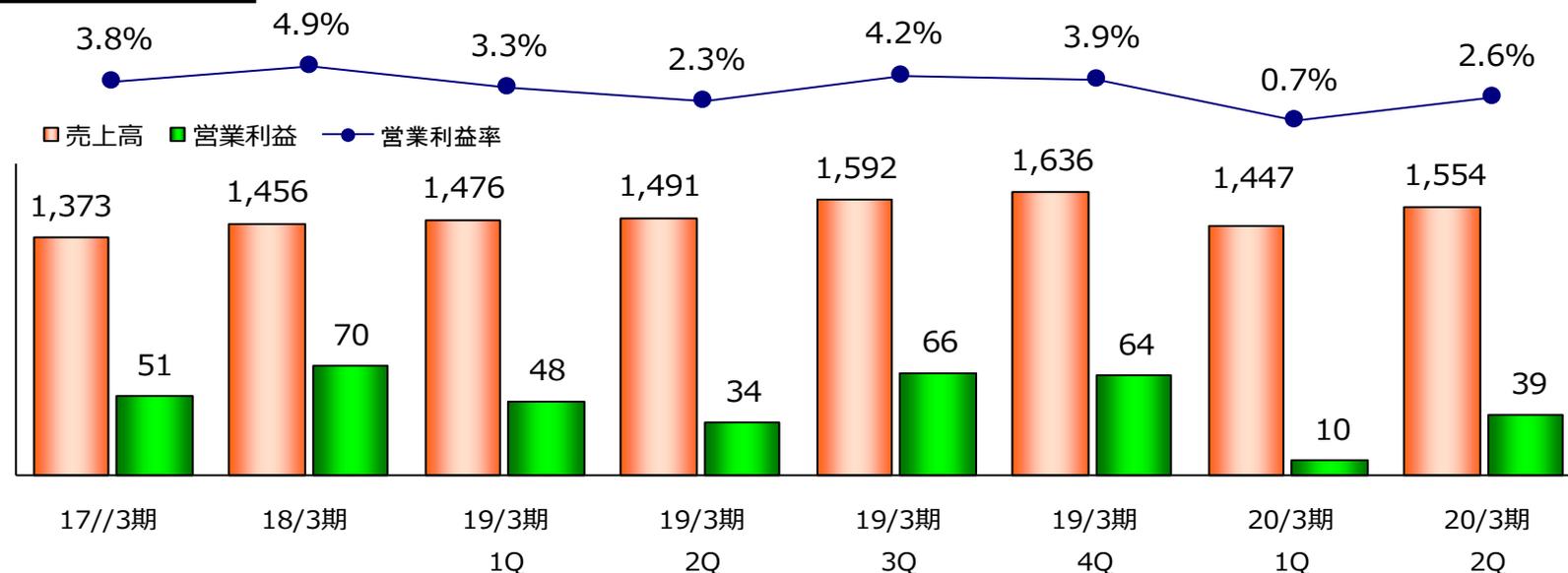
(参考) 法人所在地別業績【日本】

(億円)

日 本	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	2,967	3,001	+ 34	+ 1.2%
営 業 利 益	82	50	△ 31	△ 38.7%
利 益 率	2.8%	1.7%		

四半期推移

(億円)

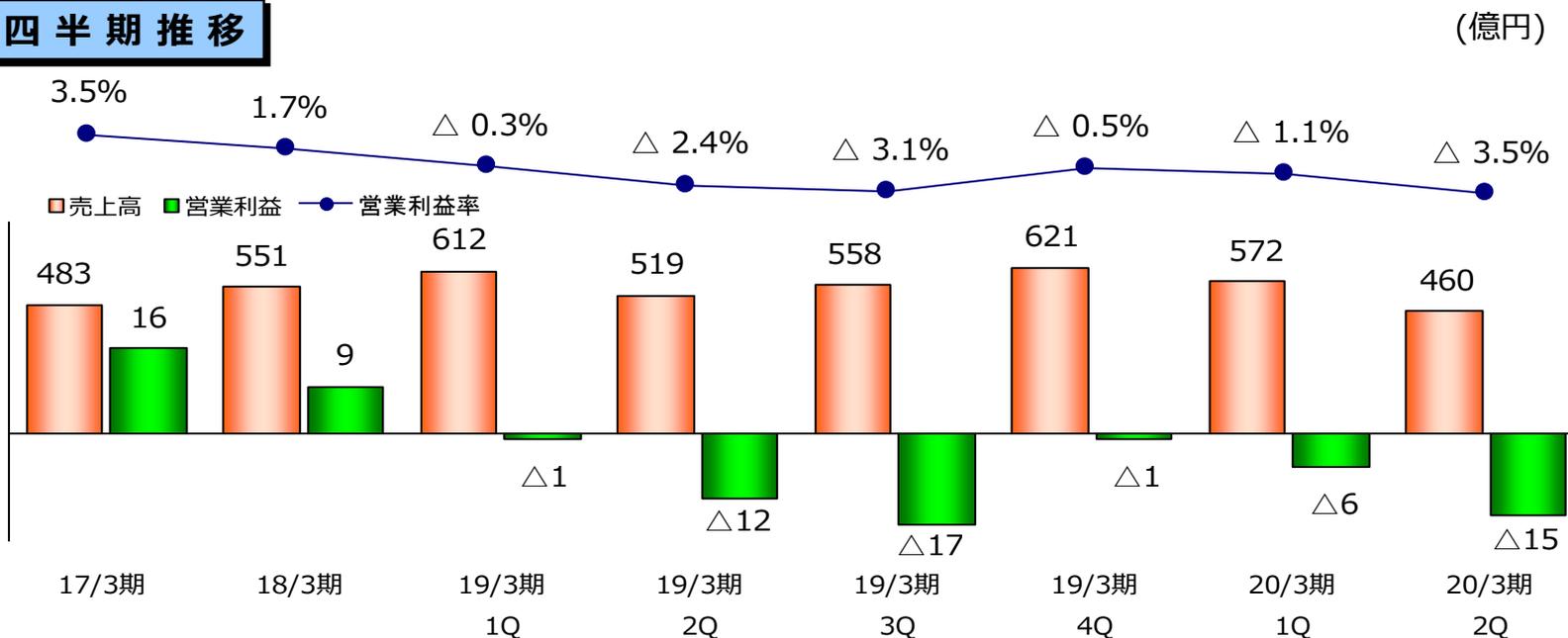


(参考) 法人所在地別業績【欧州】

(億円)

欧 州	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	1,132	1,032	△ 99	△ 8.8%
営 業 利 益	△ 14	△ 22	△ 8	-
利 益 率	△ 1.2%	△ 2.1%		

四半期推移



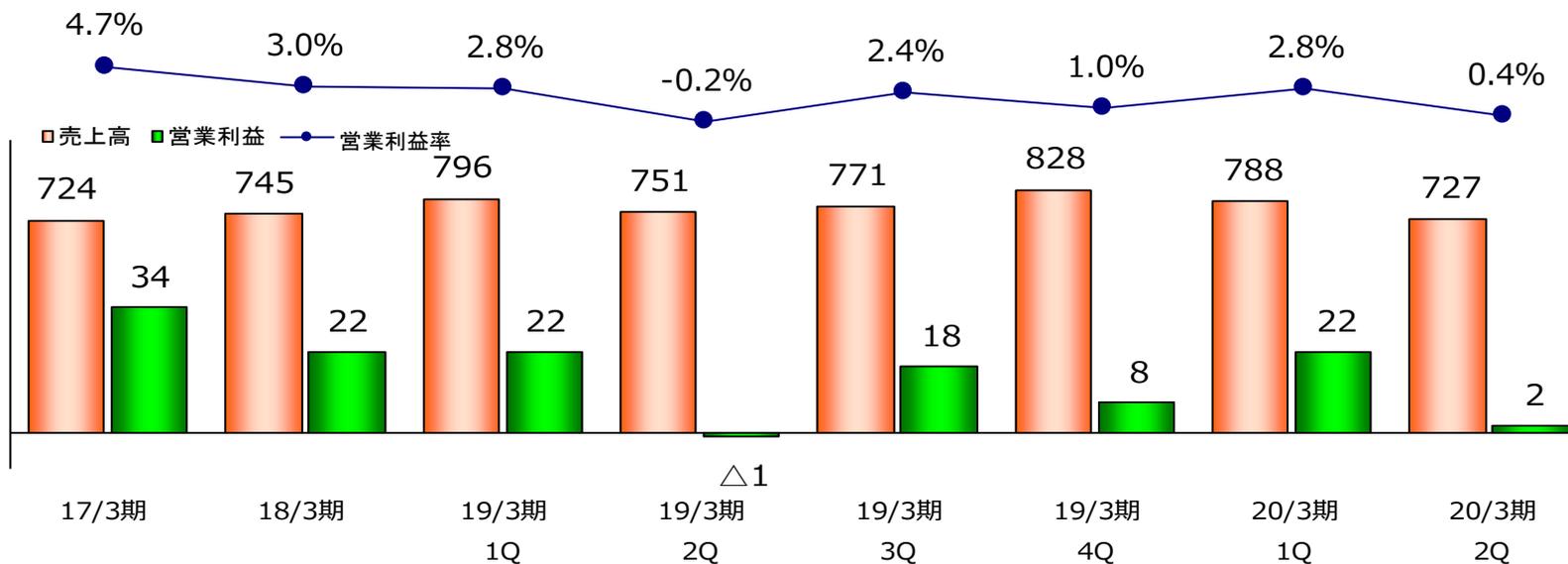
(参考) 法人所在地別業績【北米】

(億円)

北 米	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	1,547	1,515	△ 31	△ 2.1%
営 業 利 益	21	24	+ 3	+ 16.8%
利 益 率	1.4%	1.6%		

四半期推移

(億円)

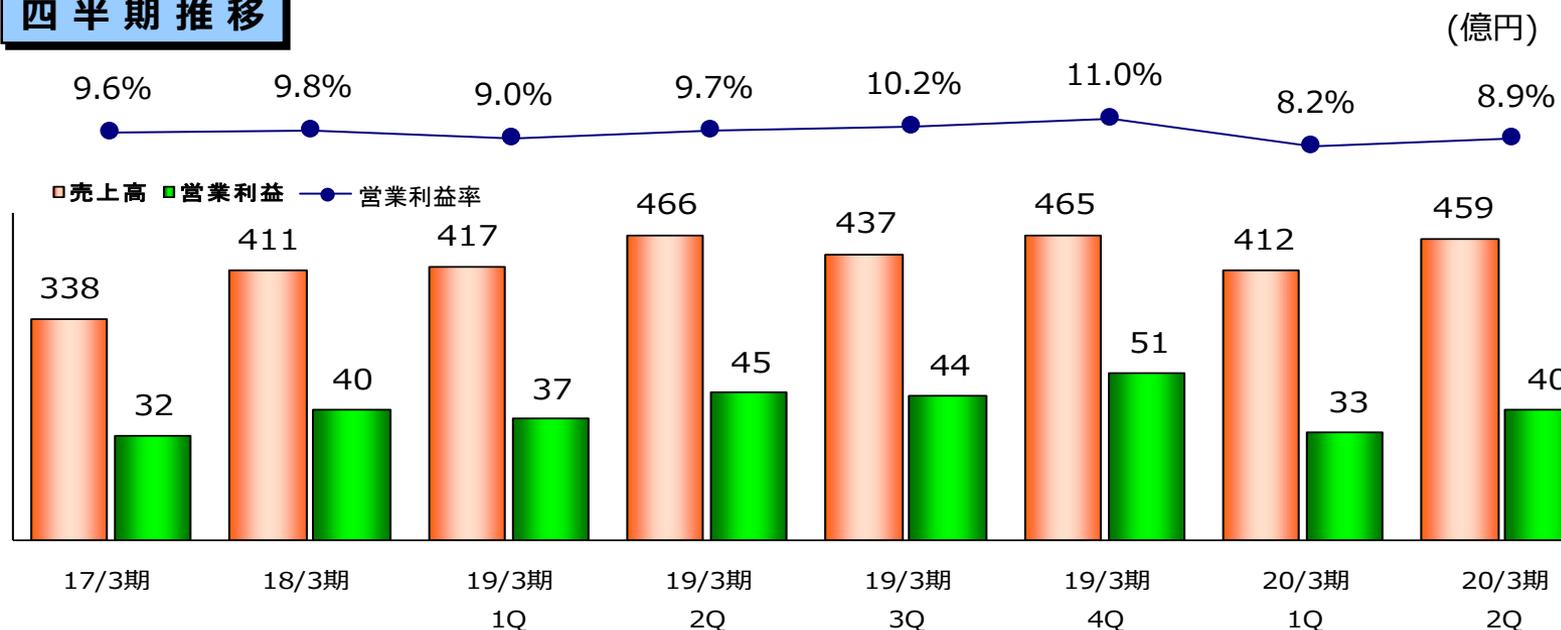


(参考) 法人所在地別業績【豪亜(インド含む)】

(億円)

豪 亜 (インド含む)	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	883	871	△ 12	△ 1.4%
営 業 利 益	82	74	△ 8	△ 10.1%
利 益 率	9.4%	8.6%		

四半期推移

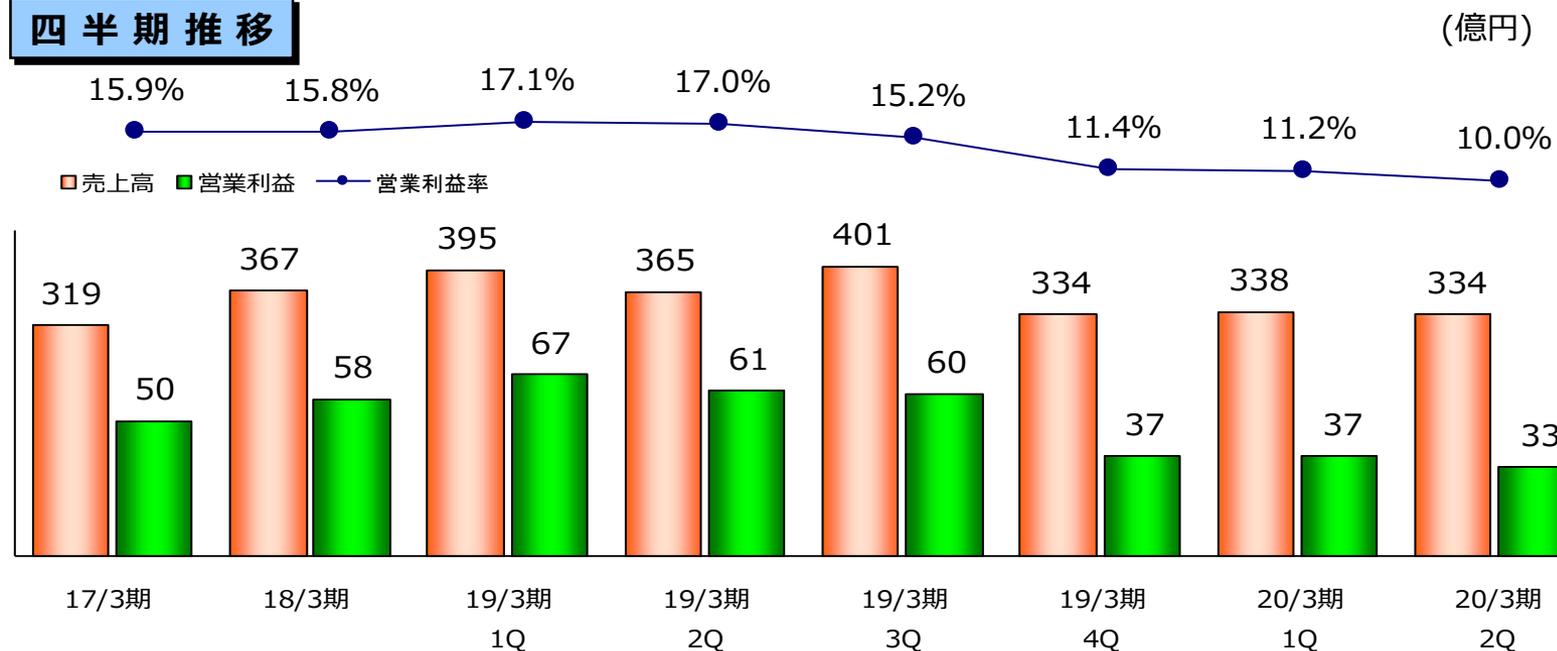


(参考) 法人所在地別業績【中国】

(億円)

中 国	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	761	673	△ 87	△ 11.5%
営 業 利 益	129	71	△ 58	△ 45.0%
利 益 率	17.0%	10.6%		

四半期推移



(参考) 法人所在地別業績【南米 他】

(億円)

南米 他	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売上高	137	125	△ 12	△ 8.8%
営業利益	8	4	△ 4	△ 48.2%
利益率	6.5%	3.7%		

四半期推移

